



「しまねの鮎づくり」の取り組みと、役割分担

取り組みの内容	課題	平成18年度						平成19年度以降						摘要	
		内水面漁連			島根県		市町村	内水面漁連			島根県		市町村		
		各漁協	高津川	江川	県(水産課)	県(水技セ)	流域市町村	各漁協	高津川	江川	県(水産課)	県(水技セ)	流域市町村		
「しまねの鮎」をつくり増やす取り組み	地場産アユ種苗の安定生産	●親魚の確保	・天然遡上アユの採捕		△	◎	—	—	—	◎ (可能な場合)	◎	—	—	初年度はすでに取り組みが始まっている高津川で採捕。他の河川・湖沼でも天然遡上アユが確保できるかをそれぞれで検討する	
			・降下アユの採捕および採卵		—	—	◎	指導	—	◎	指導	11月に降下した群を採捕			
			・親魚の養成		△	◎	△	指導	◎ (可能な場合)	◎	◎ (可能な場合)	指導	捕獲した遡上アユの親魚養成が、高津、江川の他でもできないか？		
		●種苗生産	・安定生産のための技術の向上		—	◎	◎	◎	—	◎	指導	H18年度内に生産マニュアルの作成			
			・目標生産数量の設定		◎(H18は50万尾)			—	◎(H19は100万尾。以降順次拡大)	—	—	最終的には県内で300万尾生産			
			・出荷種苗サイズの設定 <small>※H18は現状どおり</small>		—	△	指導	—	◎	指導	H18年は現行の0.5gサイズ。H19年以降について検討。				
			・冷水病対策		—	◎	指導	—	◎	指導	放流前の冷水病検査の実施				
		●中間育成	・中間育成数量の拡大		△			—	◎(可能な場合)	—	—	県内で放流種苗サイズまで育成できる可能数量の把握(江川、高津以外の漁協での取り組みの可能性は？)			
			・疾病防御対策		—	◎	◎	指導	—	◎	指導	H18年度内に生産マニュアルの作成			
			●価格		・配布価格の設定		△			—	◎	—	H18は現行通り。H19年以降について検討		
	地場産アユ種苗の放流	●放流	・しまねの鮎の放流		◎			—	◎	—	現在生産中の種苗をしまねの鮎として全漁協で放流				
			・放流方法	・放流時期		△			指導	—	指導	早期放流が可能か？			
				・放流サイズ		△			指導	◎	指導	H18年は現行の5gサイズ。H19年以降については受け入れ漁協との調整を図る。			
				・放流場所		△			指導	—	指導	しまねの鮎の効果的な放流方法について(例えば…上流ではなく下流域に放すべきかetc…)			
「しまねの鮎」を守るための取り組み	●遡上環境の整備	河川管理者への要請		◎			—	対応	◎	—	対応	引き続き河川管理者への要請を継続			
		簡易魚道の自主設置		△			指導	—	◎(可能であれば)	指導	—	魚ののぼれる川づくり事業(平成2～8年県単)の成果の利用			
		●産卵環境の整備	産卵場の造成		◎			指導	—	◎	指導	—	H18は神戸川、三隅川、高津川で実施予定。		
			河床耕耘		△			指導	—	◎(可能であれば)	指導	—	「アユの産卵場づくりの手引き(全内水面漁連)」をテキストに		
	●害敵生物対策	カワウ対策(駆除・追払など)		◎			—	対応	◎	—	対応	これまでの対策を強化・継続			
		外来魚対策	駆除		◎			—	—	◎	—	—	これまでの対策を継続		
			密放流防止		○			◎	—	対応	○	◎	—	対応	
	疾病対策	●河川における冷水病対策	無病魚の放流		◎			調整	◎	—	調整	◎	—	放流前検査	
取り組みの強化	効果	●とりくみの効果の検証	漁獲量、遊漁者数の把握		◎			◎	指導	—	◎	◎	指導	—	河川毎に遊漁者も含めた漁獲量を把握出来るか？
			資源増大の検証		○			○	◎	—	○	◎	—	—	天然遡上魚の増殖効果を把握する方法の確立
	その他	●取り組みへの支援		—			◎	—	△	—	◎	—	◎	PR、各種手続き等	

◎:主体的に実施する  
○:取り組みに参加する  
△:検討する

「しまねの鮎づくり」の取り組みスケジュール

取り組みの内容		課題		H18	H19	H20	H21	H22	
「しまねの鮎」をつくり増やす取り組み	地場産アユ種苗の安定生産	「しまねの鮎」生産・放流目標(万尾)		50	100	100	200	200	
		●親魚の確保	・天然遡上アユの採捕	高津川	生産目標に向けて拡大				
				その他の漁協	検討	採捕可能な漁協の参加促進			
		・降下アユの採捕および採卵	江川						
			高津川						
		・親魚の養成	高津川						
			その他の漁協	検討	飼育可能な漁協の参加				
		●種苗生産	・安定生産のための技術の向上		マニュアル作成・水技セ	水技セによる指導→			
			・出荷種苗サイズの設定 ※H18は現状どおり		検討→決定				
			・冷水病対策		水技セによる指導→				
	●中間育成	・中間育成数量の拡大		検討→決定	その他漁協の参加があれば拡大				
		・疾病防御対策		マニュアル作成・水技セ	水技セによる指導→				
	●価格	・配布価格の設定		検討→決定					
	地場産アユ種苗の放流	・しまねの鮎の放流		300万尾放流目標に向けて拡大					
		●放流	・放流方法	・放流時期	検討→決定				
・放流サイズ				検討→決定					
・放流場所				検討→決定					
※:H18は現行通りの方法で実施									
「しまねの鮎」を守るための取り組み	●遡上環境の整備	河川管理者への要請							
		簡易魚道の自主設置		検討	取り組みの拡大を呼びかける				
	●産卵環境の整備	産卵場の造成		取り組みの拡大を呼びかける					
		河床耕耘		検討	取り組みの拡大を呼びかける				
	●害敵生物対策	カワウ対策(駆除・追払など)		取り組みの拡大を呼びかける					
		外来魚対策	駆除	取り組みの拡大を呼びかける					
			密放流防止	島根県水産課が実施					
	疾病対策	●河川における冷水病対策	無病魚の放流		県外産種苗やおとり鮎への対応の検討(各漁協):H18				
	取り組みの強化	効果	漁獲量、遊漁者数の把握		アンケート、遊漁者モニターによる遊魚漁獲の把握				
			資源増大の検証		水技センター:検討				
その他		●取り組みへの支援		市町村:検討→決 島根県(H18は現行の制度で対応、H19以降はH18年度中に検討)					

 : 取り組みを実施する  
 : 可能なら取り組む